

第2回 未来につなぐ子育て支援セミナー報告

NPに代わる、BP3プログラムを発表

本会代表 (精神科医) 原田 正文

この夏は天候が不順で、全国各地で水害などの被害が出ていますが、会員のみなさまにはいかがお過ごしでしょうか。お伺い申し上げます。

さて、本会では、8月30日に開催しました第2回「未来につなぐ子育て支援セミナー」で、新しいプログラム「親子の絆づくりプログラム”幼児とともに!”(愛称：BP3プログラム)を発表しました。このセミナーは、「WEB開催+オンデマンド配信」という新しいスタイルで開催しましたが、400余名という多くの皆さんの参加がありました。今回の会報では、このセミナーの内容を紹介する形で、BP3プログラムについて説明したいと思います。

BPプログラムの新体系

親子の絆づくりプログラム(BPプログラム)の新体系を図1に示します。BP1・BP2プログラムは赤ちゃんがいなければ参加できないプログラムでしたが、BP3プログラムができたことで、乳幼児期の子どもを育てているすべての母親に対して、BPプログラムが対応できるようになりました。そういう点では、BPプログラムの集大成ができたと考えています。

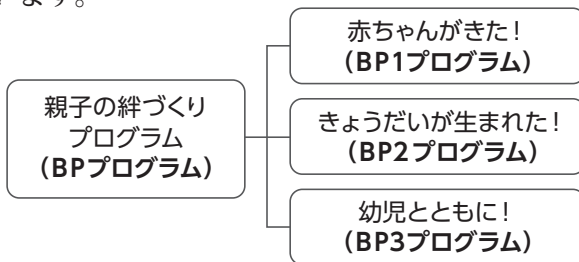


図1 BPプログラムの新体系

BP3プログラムの枠組み

表1に、BP3プログラムの枠組みを示します。プログラムへの参加者は「1歳から就学前の子どもを育てている母親」です。赤ちゃんがいなのがBP1、BP2プログラムとの大きな違いです。赤ちゃんが参加していないので、机椅子という部屋での開催も可能になります。

参加人数は「6人から20人」です。いろいろな体験を共有するという点では、参加人数はある程度多い方が良いと思います。回数は「毎週1回、同じ曜日、同じ時間帯で、連続5回」です。母親のみの参加ですので、基本的には「一時保育」を付けます。

表1 BP3プログラムの枠組み

参加者 と 人 数	<ul style="list-style-type: none"> ● 1歳以上、就学前の子どもを育てている母親(母親のみの参加) ● 6~20人
時 間 と 回 数	<ul style="list-style-type: none"> ● 1回2時間 毎週1回、同じ曜日、同じ時間帯に実施 ● 連続5回 ● 毎回、同じメンバーで実施
1 回 の セ ッ シ ョ ン	<ul style="list-style-type: none"> ● 前半1時間40分は構造化されたプログラム ● 後半20分は交流・質問タイム
一 時 保 育	<p>対象：一時保育が必要な就学前の子ども ただし、一時保育なしでの実施も可</p>
進 め 方	<ul style="list-style-type: none"> ● 資格のあるファシリテーター2名で進行 ● 参加者が10人までの場合は、資格のあるファシリテーター1名で進めてもよい。ただし、その場合は、アシスタントをつけること

ただし「一時保育」をつけないで開催することも可能と考えています。

BP3プログラムは、同じファシリテーターが2名で担当します。ただし、参加者が10人以下の場合は、ファシリテーター1名で実施することも可能です。その場合には、外部(保育室等)との連絡やDVDの操作などのためにアシスタントを1名付けます。

BP3ファシリテーター養成講座

BP3プログラムを運営するBP3ファシリテーターの養成講座は、BP2プログラムを運営するBP2ファシリテーターの養成講座と同時に開催します。というのは、BP3プログラムとBP2プログラムは、赤ちゃんが参加するかしないかという点以外は共通点が多いためです。そのため、BP2・BP3ファシリテーター養成講座2日間を受けていただきますと、BP3プログラムとBP2プログラムの2つのプログラムのファシリテーター養成講座を修了することができます。

ただし、継続してそれぞれのプログラムを実施するためには、それぞれのプログラムについて、認定資格を取得するためのBP2、BP3プログラムを実施して認定資格を取得する必要があります。

NPの実践の中から生まれたBPプログラム

KKIでは、2003年度よりカナダの親支援プログラム「Nobody's Perfect」(NPと略称)を東京の2団体とともに全国に普及させる活動を進めてきました。

NPを実践する中で、0歳児を初めて育てている親向けのプログラムの必要性が明確になってきました。というのは、NPは0歳~就学前の子どもを育てている親を対象とした参加者中心型のプログラムです。

当然、0歳児を初めて育てている親も参加します。とは言え、主たる参加者は1歳から就学前の幼児期の子どもを育てている親たちです。

NPは体験を通して学ぶプログラムですので、参加者から実際の子育ての体験を出してもらい、それを基に話し合います。ところが0歳児を初めて育てている母親には、幼児期の子どもたちを育てている親たちのような体験はまだありません。どうしても聞き役になってしまいます。しかし、0歳児を初めて育てている母親には悩みがないのか、というところではありません。初めての育児でわからないことや、他の母親はどうしているのかなど、聞いてみたいことはたくさんあり悩んでいます。その悩みをNPの場面で話しても「あぁ、そんな時期もあったね。かわいい悩みね」と軽く扱われてしまうのです。

そんな状況を見ていて、0歳児を初めて育てている親だけを対象としたプログラムの必要性を強く感じて、BP1プログラムを作成しました。そして、KKIではBP1プログラムの発表により、NPの参加対象を「1歳から就学前までの子どもを持つ親」と変更しました。

BPプログラムとNPとの違い

表2に、BP1～3プログラムとNPを比較して示しています。KKIはカナダのNPファシリテーターガイドに忠実にNPも実施していますので、NPとBPプログラムとの区別ははっきりしています。

①対象者、募集方法の違い

BP1～3プログラムはそれぞれ対象者が異なりますが、NPとの違いという点では、BPプログラムは全員対象のプログラムですが、NPは必要度の高い参加者向けのプログラムです。そのため、募集方法が異なります。

②支柱に据えた理論の違いと参加者用テキストの違い

BPプログラムの理論的支柱は、「生涯学習論」と「人格発達論」です。一方、NPは「生涯学習論」のみで、「人格発達論」は明確には入っていません。この理論的支柱の違いは大きいと考えています。

当然参加者用テキストの内容が異なってきます。参加者用のテキストの違いは理論的な違いだけではなく、カナダの文化と日本の文化の違いもあります。BPプログラムの参加者用テキストは、現代日本の実情に合わせて、KKIが作成したものですから、参加者にはわかりやすいと考えています。

③構造化されたBPプログラムと半構造化のNP

BPプログラムは構造化されたプログラムです。「構

造化された」とは、ファシリテーターが実施する内容が決められている、すなわち、セッション計画が決められている、という意味です。

一方、NPは半構造化プログラムです。4部構成というセッションの大枠は決まっていますが、内容は全く決まっていません。ファシリテーターが今回の参加者のニーズに基づき、その都度セッション計画を作成して実施する必要があります。参加者のニーズに基づき作成するという考え方は良いのですが、実際問題として、ファシリテーターの負担は大きく、ファシリテーターには高い能力が求められます。KKIでは、NPを長年実施する中で、プログラムの質が確保できていないことが大きな問題となりました。実際にファシリテーターが実施しているセッションが参加者中心型ではなかったり、参加者の安心・安全が確保されていない実態がけっこう多かったのです。そのためKKIでは、2010年に冊子『NPセッション計画の作り方とセッション事例集』を発売し、セッション計画の例をたくさん提示し、NPの質の確保を図ってきました。しかし、NPを実施しているファシリテーターのみなさん全員にまで浸透しているとはとても言えず、NPの質の確保については苦慮しています。

そういう点では、BPプログラムはファシリテーターにとっては労力のかからない、しかも質の確保が容易なプログラムと言えます。

KKIではかなり早くから、「NPよりも費用が掛からない、ファシリテーターの負担が軽い、幼児期の子どもとの関わりをテーマにして、しかもプログラムの質の確保が容易なプログラムが欲しい」と考えていました。また、「生涯学習理論」だけではなく、「人格発達論」を理論的な支柱に据えたプログラムが欲しいと考えてきました。それを実現させたのがBP2・BP3プログラムです。

表2 BP1～3プログラムとNPとの比較

	BP1	BP2	BP3	NP (KKIの規定)
対象者	初めて赤ちゃん(2～5か月、5～8か月)を育てている母親全員	2～5か月児の第2子以降を育てている母親全員	1歳～就学前の子どもを育てている母親全員	1歳～就学前の子どもを育てている親のうち、必要度の高い人
プログラム参加者	赤ちゃんと母親	赤ちゃんと母親	母親のみ	親のみ
募集方法	公募	公募	公募	アウトリサーチが基本
構造	構造化プログラム	構造化プログラム	構造化プログラム	半構造化プログラム
基礎の理論	生涯学習理論と心の発達論	生涯学習理論と心の発達論	生涯学習理論と心の発達論	生涯学習理論
テキスト	KKIが制作したテキスト	KKIが制作したテキスト	KKIが制作したテキスト	カナダで制作されたテキスト
一時保育	なし	必要な子ども(保育なしも可)	必要な子ども(保育なしも可)	必要な子ども
回数	4回	5回	5回	8回が基本
実施経費、エネルギー、質の確保など	BP1～3は、NPよりは格段に安価に実施可能。実施に要するエネルギーが少なくしかも、プログラムの質の確保が容易			